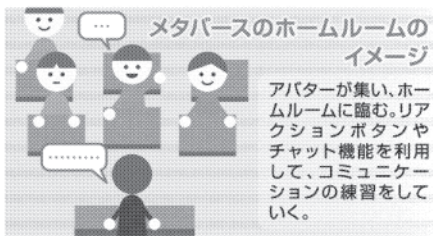


デジタル教室 A 月開設

宇都宮市は自宅で過ごす不登校の児童生徒を対象に、オンラインで学習支援や心のケアを行う「デジタル適応支援教室」を4月にも開設する方針を固めた。県内初となる見通し。既に市内小中学生へ配布している1人1台のノート型パソコンを活用し、メタバース（仮想空間）のホームルームで他の児童生徒との交流もできる。全ての子どもに学びの機会を保障し、将来の社会的自立を目指す。
(青木友里) 23面に関連記事

学習、交流、自立を支援



市教委の調査によると、2021年度の市立小中学校の不登校児童生徒は1126人。このうち74%は学校、適応支援教室、民間のフリースクール、市教育センターなどの何らかの支援につながっていたが、26%はつながっていないかった。

デジタル適応支援教室は、どの支援にもつながりがないまま、自宅にいる児童生徒が主な対象。それぞれのペースや興味関心に合わせて、時間割や活動内容を組み立てる。

学習は人工知能(AI)を使った学習ドリルや既存の学習用動画を活用。希望に応じて在籍校の授業の配信も行つ。外部ボランティアなどの協力も得て、社会体験や職業体験の動画も配信する予定。スクールカウンセラーが保護者も対象にオンライン面談を行う。

メタバースのホームルームは児童生徒がアバター(分身)で参加する。「いいね」「拍手」などのリアクションボタンや会話形式のチャット機能を使い、他の児童生徒とのコミュニケーションを楽しむ。デジタル教室での活動状況は、在籍する学校と共有する。教室の名称は「U@りんくす」。宇都宮の頭文字と「あなたにちなんだU」に、アットホームな雰囲気をつなぐつもりという意を込めた。運営には教員2人を含む5人を配置する予定。市は新年度一般会計当初予算案に726万円を計上した。

市教育センターの金子渉所長は「自己決定を大切にして必要なこと、やりたいことを選択し、自分の良さに気づける場所にした」と話している。

設 問

【1】「デジタル適応支援教室」とは、どのような児童生徒を対象にしたものですか？

【2】以下の文が正しければ○、誤っていれば×をつけましょう。

- ・「デジタル適応教室」の開設は、県内初である。

【3】見出し「A」には数字が入ります。記事をよく読んで、適語を答えましょう。

【4】この教室での学習に活用されているものは、どのようなものですか？記事をよく読み、箇条書きの形にまとめてみましょう。

【5】この教室は、どのような場所に

不登校者仮想空間で出席

宇都宮市、県内初

小学校高学年
（高校生向け）
年 組



155

なることが望まれていますか？記事をよく読み、まとめてみましょう。